

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	入居者様に対することば遣いや姿勢が課題になっている。慣れもあり、「行くよ」「おいで」等の友達ことば(幼児扱い)や指示や命令、一部叱責も見られ一線を引いていない。スピーチロックの意識が薄く、感情のコントロール能力が足りない。	①対人援助技術の向上 ・認知症の理解、コミュニケーション能力の向上 ②感情コントロールできる力をつける ・職員のストレス軽減 ③職員同士注意し合える関係、環境を作る	①ミニ勉強会、ミーティング、運営推進会議の開催 ・30分程度の勉強会や運営推進会議の中で、認知症の理解の勉強を行う ・ミーティングで事例検討を行っていく ②しっかり休息をとる ③職員間の親睦、コミュニケーション	12ヶ月
2	23	「その人らしい生活」の実現を目標に生活支援しているが、職員本位になってしまったり(職員の自己満足)、共同生活であるが故にご本人が満足する支援ができないこともある。入居者本位を意識した個別ケアの実践、その人が持つ能力を最大限に引き出す働きかけの能力が備わっていない。	① 1対1の関わりを大切に話を「聴く」、行動を「観る」「待つ」ことで感じたこと、気づいたことをその人らしい生活の支援につなげる ② 生活歴、価値観、認知症の原疾患や症状を理解し、ご本人の「いいところ」に気づく(観察力)力を養う。	① 「聴く・観る・待つ 感じてつなげよう」の目標を意識して入居者と関わり、職員間で共有するミーティング等で具体的にディスカッションし、気づきをアプローチに繋げていく ② 「にやりほっと」記録、気づきの共有アセスメント、モニタリング能力の強化 家族との連携—情報交換	12ヶ月
3	35	年2回消防署指導の元火災総合避難訓練を実施しているが、全職員に周知されず、不安な職員もいる。また、火災以外の地震を含めた風水害災害時の訓練は立ち遅れており、総体的に危機意識が低い。	① 消防署立ち合いの避難訓練の実施、および課題に添った自主訓練の実施。 ② 伝達訓練、炊き出し訓練の実施及び地域防災の参加 ③ 法人作成の風水害災害時などのマニュアルに添って地域性をふまえた施設独自のマニュアルを作成する。	① パート職員も含め、全職員が落ち着いて行動できるよう訓練を繰り返す。救命講習、運営推進会議の中で防災について勉強を行う ② 地域防災では実際に災害が起こったと想定し、伝達訓練や同報無線からの情報を聞き、災害直後の施設運営を実践する ③ 行政、NPO法人等にアドバイスをいただきながら、施設独自のマニュアルを作成をしていく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。